

KUBOTA BALLET

お友だちの
バレエ教室
をたずねて



踊ることは楽しい！
そのよろこびをいつまでも

写真 / 松谷靖之

刺激いっぱい の合同レッスン

三重県の員弁郡で、25年つづくバレエスタジオ「KUBOTA BALLET」。主宰の窪田みつる先生は、昨年となりの愛知県に、支部の「KUBOTA BALLET 車田教室」をオープンしました。ここの運営・指導にあたるのは、車田千穂先生。松岡伶子バレエ団を退団後も、三重の本校や愛知県内の文化センターでバレエを教えながら、フリーのダンサーとして活躍しています。

取材に訪れたのは、JR勝川駅から徒歩3分のところにある、この「車田教室」。新体操の練習ができるほど天井が高く、広々としたスタジオに、この日は本校からも生徒がやってきました。

「この支部はまだできたばかりなので、お手本となる上級生がいません。ですから、今日のように本校との合同レッスンがあると、みんな大よろこび。じょうずな生徒の踊り

クラス分け	
ベビークラス	3才から
初等クラス	小学1年生以上
中等クラス	小学4年生以上で トウシューズをはける人
一般クラス	中学生以上

*そのほかおとなクラスあり

に、刺激を受けて帰っていくんですよ」と語る車田先生。美しいお手本を見せて教えてくれる先生のレッスンは、本校の生徒にとっても、大きな刺激になっています。

踊る楽しさを 感じて

中等クラスのレッスンは、生徒はまず、深くていねいにレヴェランシします。

「ふだんからあいさつ、身だしなみ、周りへの気配りなど、人としての基本的なマナーを指導しています。もちろんレッスンマナーにもきびしいですよ。ていねいなレヴェランシはもちろん、説明しているときにだら



しない姿勢をとったり、私が「いいですよ」という前にポーズをくずしたりすることは許しません。生徒には、正しいバレエテクニックを身につけると同時に、どこに出しても恥ずかしくない、しっかりしたマナーを身につけてもらいたいんです」と車田先生。

「土ふまず上げて」「骨盤立てて」といいながら、生徒の体に触れて、正しい基本姿勢を覚えこませています。

「生徒にはケガのないよう、基礎を正確に理解しながら踊ってほしいんです。体の条件は一人ひとりちがいますが、まずは自分にとっての正しいポジションを知ってもらい、心掛けていきます。バレエシューズがよれないよう

に土ふまずを上げ、骨盤をまっすぐに起こして立ち、膝とつま先が同じ方向を向くようにプリエする——生徒にはこの基本を、しっかりとマスターしてもらいたいですね」

でもそうすると、脚にばかり集中して、踊りがかたくなってしまうことがあるそう。そこでワガノワ式のポール・ド・ブラをプラスして、上体の優雅な動きを組み合わせています。

「ポイントが、腕だけではなく、顔もしっかりつけること。そうすると、踊りがぐっと大きく華やかになって、踊るのが楽しくなってくるんです。

いつも「つけすぎ」と思うくらいやるように指導しているんですよ。でも、生徒の顔のつけ方は、まだまだ足りないです」と車田先生。

この日は、ベビークラスと初等クラスのレッスンも行われました。ベビークラスでは、鳥になった気分ですわたり、音楽に合わせて手拍子をしたり。遊びの要素がいっぱいで、生徒の顔から笑顔が消えることはありません。

初等クラスのセンターでは、エシヤベのほか、グリッサードやアッサンブレなども行い

